

■著作権について

本レポートと表記は、著作権法で保護されている著作物です。本レポートの著作権は発行者にあります。本レポートの使用に関しましては、下記の点にご注意ください。

■使用許諾契約書

本契約は、本レポートを入手した個人・法人（以下、甲と称す）と発行者（以下、乙と称す）との間で合意した契約です。本レポートを甲が受け取り開封することにより、甲はこの契約に同意したことになります。

第 1 条本契約の目的：

乙が著作権を有する本レポートに含まれる情報を、本契約に基づき甲が非独占的に使用する権利を承諾するものです。

第 2 条禁止事項：

本レポートに含まれる情報は、著作権法によって保護されています。甲は本レポートから得た情報を、乙の書面による事前許可を得ずして出版・講演活動および電子メディアによる配信等により一般公開することを禁じます。特に当ファイルを 第三者に渡すことは厳しく禁じます。甲は、自らの事業、所属する会社および関連組織においてのみ本レポートに含まれる情報を使用できるものとします。

第 3 条損害賠償：

甲が本契約の第 2 条に違反し、乙に損害が生じた場合、甲は乙に対し、違約金が発生する場合がございますのでご注意ください。

第 4 条契約の解除：

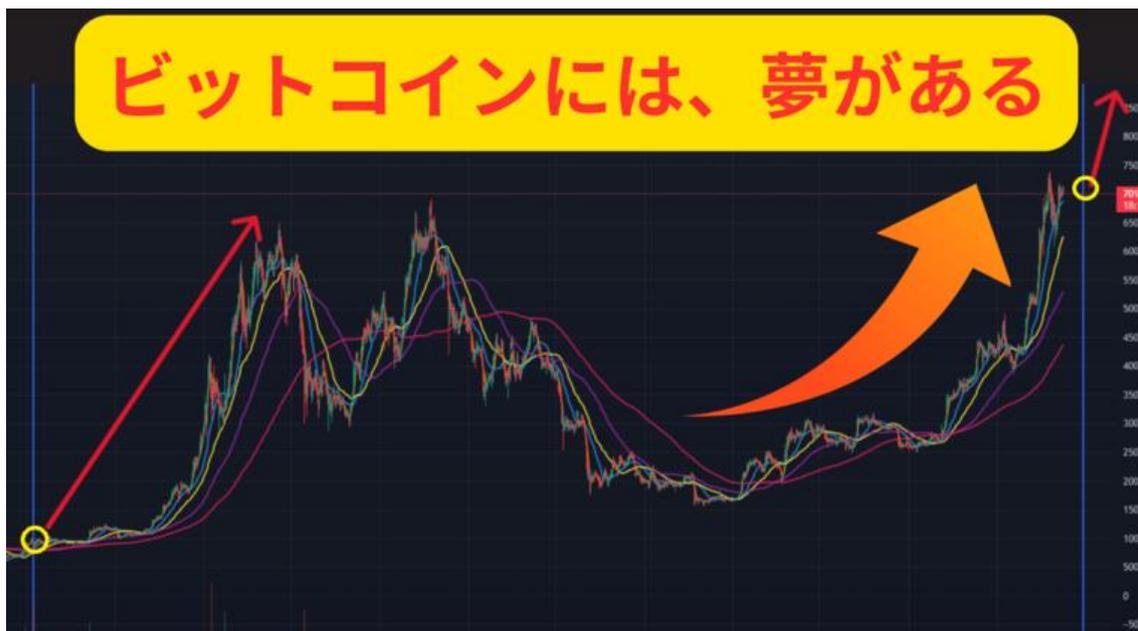
甲が本契約に違反したと乙が判断した場合には、乙は使用許諾契約書を解除することが出来るものとします。

第 5 条責任の範囲：

本レポートの情報の使用の一切の責任は甲にあり、この情報を使って損害が生じたとしても一切の責任を負いません。

■目次

- 1-1 ビットコインとは？
- 1-2 ビットコインのユニークな特性
- 1-3 投資対象としてのビットコインの魅力
- 1-4 4年に1度の半減期
- 1-5 換金性が高い
- 1-6 BTC 価格チャート分析
- 1-7 ビットコイン取引所の特徴
- 1-8 交換業者の選び方
- 1-9 取引所と販売所の違い
- 1-10 抑えておくべき手数料の種類
- 1-11 ビットコイン購入時の注意事項
- 1-12 ビットコインの保管方法
- 1-13 税金について
- 1-14 よくある質問
- 1-15 まとめ



はじめまして、杉浦和久と申します。

2024年2月にビットコイン（BTC）の価格が日本円建てで史上最高値を更新しました。1月には米国の規制機関がビットコイン現物ETF（上場投資信託）という金融商品を初めて承認しており、国内外で暗号資産（仮想通貨）ビットコインへの注目が高まっています。

一方で、仮想通貨は従来の金融商品やお金とは異なる特徴を持つため、不明点も多く、投資に踏み出せないという方も多いでしょう。

そのため、本レポートでは代表的なビットコインの買い方や注意点などを初心者の方に向けて、わかりやすく解説していきます。

1-1 ビットコインとは

ビットコインとは世界で初めて誕生した暗号資産（仮想通貨）です。発行数と価格を掛け合わせた時価総額が164兆円（2024年2月時点）に上り、仮想通貨市場で50%以上のシェアを占めています。

一方で、他にも非常に多くの銘柄が開発されており、ビットコインよりも後に誕生した仮想通貨はまとめて「アルトコイン（Alternative Coinsの略）」と呼ばれています。

ビットコインは、2008年に「Satoshi Nakamoto (サトシ・ナカモト)」と名乗る正体不明の人物・あるいは組織が公開した論文をもとにして誕生しました。

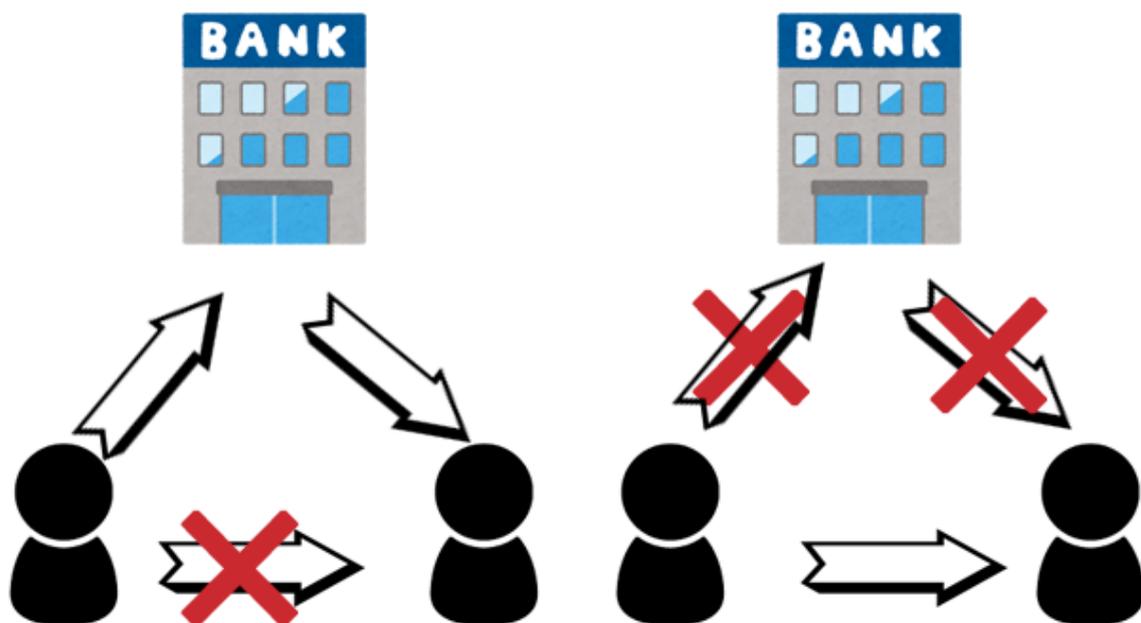
ビットコインの要点は、公開鍵の暗号技術を通じて所有権を管理する構造と、「プルーフ・オブ・ワーク」と知られる、誰がコインを所有しているかを追跡するためのコンセンサスアルゴリズムを組み合わせたものです。

分散型デジタル通貨という概念は以前から存在し、中央管理機関（国や政府など）を必要としない通貨の創造に向けた試みが何度もありました。しかし、その試みが成功を取めたのはビットコインが初めてです。

1-2 ビットコインのユニークな特性

電子マネー

仮想通貨



ビットコインは、従来の電子マネーや法定通貨とは根本的に異なる、いくつかの革新的な特徴を持っています。これらの特徴はビットコインのユニークな価

値を形成し、その使用方法や投資対象としての魅力に大きく影響を与えています。

ピアツーピアでの直接取引：ビットコインはピアツーピアの技術を用いており、中央機関や第三者を介さずに、ユーザー同士で直接取引が可能です。これにより、送金時の手数料を削減し、国境を越えた取引を迅速に行うことができます。

価格の変動性：ビットコインは裏付けとなる資産がなく、供給量が限定されているため、需要と供給のバランスによって価格が大きく変動します。これは、一方で大きな投資リターンの可能性を秘めていますが、一方で価格変動のリスクも高いことを意味します。

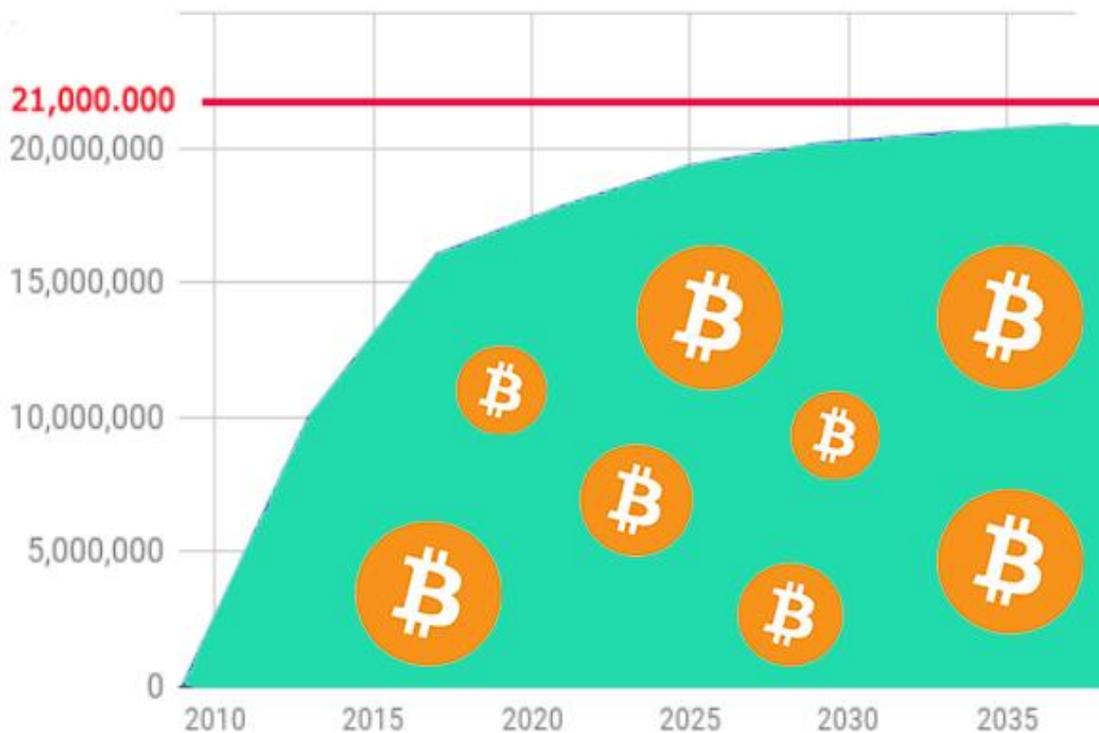
分散型の管理体制：ビットコインは中央の発行機関や管理者が存在せず、全ての取引はブロックチェーン技術によって記録されます。この分散型台帳技術は、ビットコインネットワークの安全性を高め、プロトコルの変更をコミュニティの合意に基づいて行うことを要求します。

ビットコインの登場以降、多くの研究者やプログラマーがこのアイデアに触発され、志を同じくする人々が集まっての開発が進み、2009年1月3日、初のビットコインが採掘されました。以後、ビットコインのネットワークはこれまで一度も停止することがありませんでした。

2008年の金融危機時に生じた法定通貨に対する不信感を背景に、ビットコインは支持を集め、現在までに複数の国が法定通貨として採用したり、企業が資産として保有したりと採用が拡大しています。主要な機関投資家が代替投資として言及する機会も増えています。

1-3 投資対象としてのビットコインの魅力 (発行上限が 2100 万 BTC に制限されている)

BTC採掘量



投資対象として見るときに、ビットコインの最大の特徴は「供給量の上限がプログラムによって設定されている」ことです。資産価格は需要と供給のバランスによって決まりますから、新規供給量が限定されている（または減少する）場合、価格には上昇圧力が働きやすくなります。

1-4 4年に1度の半減期

日付	BTC価格	報酬
2012/11/28	12.31ドル (約1300円)	50→25BTC
2016/07/09	650.63ドル (約7万円)	25→12.5BTC
2020/05/12	8800ドル (約93万円)	12.5→6.25BTC
2024	-	6.25→3.125BTC
2028	-	3.125→1.5625BTC

ビットコインの設計には、4年ごとに新規発行量が半減するという特性があり、マイニング報酬として新たに市場に供給されるビットコインの数量が半減します。この特性はビットコインの価値を保持するメカニズムとして機能します。このビットコインが持つデフレ的な構造は、米ドルやその他の法定通貨が直面するインフレ傾向とは対照的であり、法定通貨のインフレに対抗する一因とされています。

1-5 換金性が高い

#	企業	シンボル	国	ビットコイン量	初期購入金額(ドル)	現在の価値(ドル)	対価に対する%
1	MicroStrategy Inc.	NASDAQ:MSTR	US	174,530	\$4,680,000,000	\$9,805,145,908	0.831%
2	Galaxy Digital Holdings	TSE: GLXY	US	17,518	-	\$984,166,310	0.083%
3	Marathon Digital Holdings	NASDAQ:MARA	US	13,716	\$189,087,000	\$770,568,849	0.065%
4	Tesla, Inc.	NASDAQ:TSLA	US	10,500	\$336,000,000	\$589,893,039	0.05%
5	Hut 8 Mining Corp	NASDAQ:HUT	CA	9,366	-	\$526,184,590	0.045%

ビットコインは、その高い換金性によっても魅力的です。特に、ビットコインの時価総額が仮想通貨の中で最も高く、また取引量も非常に多いため、市場の流動性が非常に高いという特徴があります。これは、投資家がビットコインを容易に購入または売却できることを意味し、価格の安定性とアクセスの容易さを提供します。

この高い流動性は、大企業がビットコインに投資する重要な理由の一つです。例えば、テスラやマイクロストラテジーなどの企業は、資産の多様化とインフレリスクからの保護を目的として、大量のビットコインを購入しています。

さらに、ビットコインのグローバルなアクセス性は、地理的な制限や通貨の変換なしに、世界中どこでも資金を移動させることができるという利点を提供します。これは、国際的な取引や投資において大きな利便性をもたらし、ビットコインを法定通貨では得られない独特の価値を持つ投資対象として位置づけています。

1-6 BTC 価格チャート分析

2024年4月9日更新：BTCの市場は、短期的には上昇トレンドチャンネルに位置しています。数日前の65,000ドル（9,750,000円）の水準からの回復を経て、まもなく新たな史上最高値を目指す可能性があります。



3月14日に高値を記録して以降、日足チャート上では三角保ち合いのパターンを形成しており、時間的にはいつブレイクアウトしても不思議ではありません。上方にブレイクすれば、75,000ドル（11,250,000円）の水準を目指し、新たな史上最高値へと上昇する可能性が高まります。

相対力指数（RSI）も50%を超える値を示しており、市場のモメンタムは強気であり、価格が急騰する可能性が高いことを示唆しています。

一方で、三角保ち合いのレンジを底抜けた場合、直近のブレイクアウトがフェイクの動きであったことを意味します。三角保ち合いの下限や 60,000 ドルのサポートゾーンへと価格が下落する可能性が高まります。

1-7 ビットコイン取引所の特徴

●ビットコイン投資の主なメリット

- ・ 24 時間 365 日いつでも取引可能
- ・ 小額投資が可能
- ・ ウォレットによる自己管理も

ビットコインは分散型台帳技術により管理され、そのコピーは世界中に共有されています。これにより、一日中いつでも取引が可能となり、価格はグローバルに絶えず変動しています。多くの仮想通貨取引所が 24 時間稼働しているため、いつでも取引を行うことができます。

通常の株式市場が営業時間に限定され、休日や夜間には取引ができないのに対し、ビットコイン取引にはそのような制約がありません。

さらに、ビットコインは 1BTC が数百万円と高価であるものの、0.00000001 BTC (数百円) といった小額からでも購入可能なため、気軽に投資を始めることができます。

特に注目すべきは、デジタルウォレットによる自己管理の可能性です。投資家は自らのビットコインをデジタルウォレットで管理することができ、取引所のセキュリティ依存を減らし、自身での資産管理を可能にします。この自己管理能力は、セキュリティの向上や、自由度の高い資産運用を可能にし、ビットコイン投資の大きな魅力の一つとなっています。

●ビットコイン投資の主なデメリット

- ・ 価格変動による損失リスク
- ・ セキュリティ上のリスク
- ・ 実用性と未知のリスク

ビットコインの価格は、裏付けとなる実体や中央銀行などの中央集権的機関による管理がないため、市場の需給バランスによって大きく左右されます。このため、ボラティリティ（価格変動幅）が伝統的な金融商品に比べて高く、短期間での価格の急騰や急落による損失リスクがあります。

また、インターネットを介して取引されるビットコインは、ハッキングのリスクに常に晒されます。実際に、過去には日本を含む複数の国で大規模なハッキング事件が発生し、多額のビットコインが盗まれた事例があります。また、仮想通貨の普及に伴い、詐欺の手口も巧妙化しており、投資家はこれらのリスクに注意する必要があります。

サトシナカモトはビットコイン「P2P 電子通貨システム」と定義しましたが、手数料問題やスケーラビリティの課題から、決済手段としての採用は限定的です。さらに、米国でビットコイン現物 ETF が承認されるなど、規制環境の進展は見られますが、ビットコインを含む仮想通貨市場はまだ新しく、予期せぬリスクが生じる可能性があります。

1-8 交換業者の選び方

日本はいち早く仮想通貨の規制整備に着手しました。現在日本で仮想通貨の取引サービスを提供する企業は、金融庁・財務局への登録が必須になっています。

金融庁によれば、本記事執筆時点で金融庁・財務局に登録している交換業者は29社。日本で登録業者からビットコインを購入するには、まずはどの会社を利用するか選ばなくてはなりません。

交換業者を選ぶ際に比較材料となるのは主に以下のようなポイントです。

- ・ アプリなどサービスの使いやすさ
- ・ 手数料の仕組み
- ・ 安全性と信頼性

ビットコインであればほぼ全ての交換業者が扱っていますが、一つのポイントは手数料です。取引だけでなく、入金やBTCの出庫時にかかる手数料も重要です。

他にも、アプリやウェブサイトの画面を見てみて使いやすいそうか、安全性や信頼性を高めるためにどのような取り組みを行なっているか、運営会社はどのような企業なのかを確認すると良いでしょう。

1-9 取引所と販売所の違い

ビットコインを売買する際には、「取引所」と「販売所」という二つの手段があります。以下では、取引所と販売所の主な違いを探り、どちらがあなたのニーズに最適かを判断するための情報を提供します。

●誰と取引するか

販売所：ビットコインの販売所では、交換業者自身が取引の相手方となります。この方式は、一般的な店頭販売に似ており、業者が提供する価格で直接購入する形式です。

取引所：ビットコインの取引所では、他の投資家が取引の相手方となります。これは株式市場に似たシステムで、オーダーブックを介してユーザー同士が市場価格で直接取引を行います。

●スプレッドの影響

取引所と販売所の間で重要な違いの一つが「スプレッド」です。スプレッドとは、買い値と売り値の差額を指し、この差が大きいほど交換業者はより多くの利益を得ます。一般的に、販売所は取引所に比べてスプレッドが広く設定されているため、販売所での取引はコストが高くなりがちです。このため、販売所の利用時はスプレッドに注意して選択することが重要です。

1-10 抑えておくべき手数料の種類

仮想通貨取引におけるもう一つの重要な考慮事項は、手数料の構造です。投資コストを最小限に抑え、最大限の利益を得るためには、手数料の違いを理解し、比較する必要があります。

取引手数料：取引を行う際に発生するコストで、取引額の一定割合で計算されることが一般的です。

入出金手数料：資金の入出金に関連する手数料で、円や仮想通貨の入出金時にそれぞれ発生する場合があります。これらの手数料は、交換業者や取引方法によって異なります。

手数料は交換業者や取引条件によって複雑に異なるため、取引を開始する前に各社の手数料一覧ページを確認し、自分の取引スタイルに合った業者を選択することが重要です。このようにして、手数料を含めた全体的な取引コストを把握し、適切な交換業者を選択することが、賢明な仮想通貨取引の鍵となります。

1-11 ビットコイン購入時の注意事項

ビットコインなどの仮想通貨を買う上で考慮した方が良い重要ポイントを紹介します。

まずは、少額から投資し始めることを検討してみてください。仮想通貨は株式などと比べると少額で投資することが可能です。ビットコインは 1BTC 以下でも購入することができますので、まずは慣れることから始めるのも 1 つの方法です。

次に、投資は余剰資金で行いましょう。これは仮想通貨に限らず、資産運用のポイントとしてよく挙げられています。生活に必要なお金や将来使う予定のある資金ではなく、当面は使う予定のないお金で投資するようにしてください。

仮想通貨にも、手元の資金よりも大きな利益を狙える「レバレッジ（証拠金）取引」という投資手段もありますが、大きな利益を狙える分、損失のリスクも大きくなります。投資金額を増やしたり、レバレッジ取引をしたりする前に、まずは余剰資金を使って少額投資を行うことから始めることをお勧めします。

1-12 ビットコインの保管方法



購入したビットコインを保管・管理する方法を紹介します。

まずは、交換業者にそのまま預けておくという方法があります。その場合は口座に2段階認証を設定することをお勧めします。

また、仮想通貨には交換業者に預けておく以外に、自身で管理する方法もあります。仮想通貨のウォレットサービスを提供している企業があるので、自身でサービスを選び、登録手続きをすることで仮想通貨を自身で保管・管理できます。

ウォレットとは、仮想通貨を保管するための電子上の財布のこと。ビットコインに対応するウォレットを選べば、自身で資産管理を行うことができ、交換業者のハッキングリスクや倒産リスクを回避することができます。

ウォレットにはハードウェアウォレットといってオフラインで仮想通貨を保有できるタイプのものなどがありますが、どのウォレットも自身で保有しておくには「秘密鍵」という長い文字列などを管理する手間がかかります。

秘密鍵などの必要な情報を紛失してしまうと資産を失ってしまうこととなりますが、自身で資産を管理できるということも仮想通貨の大きなメリットの 1 つなので、ウォレットの種類を簡単にご紹介しておきます。

- ・モバイルウォレット：スマホのアプリで保管
- ・ウェブウォレット：サービス企業のウェブサイトで保管
- ・デスクトップウォレット：パソコンで保管
- ・ハードウェアウォレット：オフラインの専用機器で保管
- ・ペーパーウォレット：紙で保管

1-13 税金について

所得税の速算表

課税される所得金額	税率	控除額
1,000円 から 1,949,000円まで	5%	0円
1,950,000円 から 3,299,000円まで	10%	97,500円
3,300,000円 から 6,949,000円まで	20%	427,500円
6,950,000円 から 8,999,000円まで	23%	636,000円
9,000,000円 から 17,999,000円まで	33%	1,536,000円
18,000,000円 から 39,999,000円まで	40%	2,796,000円
40,000,000円 以上	45%	4,796,000円

ビットコインを購入するだけでは税金はかからないため本記事の主題から外れますが、いずれ売却した時には課税されるため、直接関係してくる所得税のルールだけご紹介しておきます。

仮想通貨取引での所得には税金がかかります。現在の法律では「雑所得」に区分されています。

雑所得に分類される仮想通貨取引での所得は、給与所得などの他の所得と合算した金額に対して税率がかかります。税率は、所得が多いほど高くなる「累進課税」が適用され、5%~45%の 7 段階に分かれています。住民税も合わせると最大で約 55%の税率が課されます。

ほかには、仮想通貨の所得税には以下のような特徴があります。

- ・年間の取引で損失が出ている場合でも、給与所得と合算して相殺（損益通算）することはできない
- ・生じた損失は翌年以降の利益と相殺できない]]

1-14 よくある質問

最後にビットコイン購入に関する「よくある質問」と回答を掲載します。

—未成年でも買えますか？

回答

多くの交換業者が利用条件に 18 歳以上であることを挙げていますが、BTCBOX のように未成年でも口座開設できる交換業者もあります。BTCBOX に未成年が登録する場合は本人確認書類以外に、親権者の同意書、親権者との続柄確認書類を提出する必要があります。

—クレジットカードで購入できますか？

回答

以前は購入できる交換業者が複数ありましたが、価格変動の大きさを懸念するカード会社の希望もあり、現在は多くの交換業者がクレジットカードの受付を行っていません。

—法人でも購入できますか？

回答

法人でも国内の交換業者に口座開設して購入を行うことが可能です。個人と比較して利益に課される税率を抑えることができる場合があったり、サービス内容が異なったりすることがあるため、交換業者のウェブサイトなどを確認しましょう。]]

ービットコイン投資は儲かりますか？

回答

ビットコインや仮想通貨に限らず、必ず利益が出る金融商品はありません。一方で、他の金融商品とは違った特徴があって資産を多様化できたり、機関投資家からの注目度が高まってきたりしていることは事実です。本記事の内容を踏まえて、投資対象として価値があるかをご自身で判断しましょう。

1-15 まとめ

以上がビットコインの買い方に関する解説です。どんな金融商品にもメリットとデメリットがあり、それはビットコインも同様です。

過去には日本の交換業者がハッキングに遭ったり、ビットコインなどの価格が大きく下落したりしたことがあるので、投資のリスクが高すぎるという印象もあるかもしれません。

一方で、本記事で述べてきたようなメリットもあります。資産として未成熟な点があるからこそ、投資家の数が株式などに比べるとまだ少なく、早く市場に参入できるというメリットもあります。

取引所の口座開設は時間と手間はかかりますが、費用はかかりません。利益を得るチャンスを逃さないためにも、まずは交換業者に口座だけ作ってみてはいかがでしょうか。

――

■ 発行者情報

発行者：杉浦和久

連絡先：crypto@dotcomexpertsecrets.com

ブログ：<https://dotcomexpertsecrets.com/>

■おススメ教材

商品名:4年に1度しか訪れない仮想通貨投資の一大イベントが来年2024年4月に訪れるのをあなたは知っていますか？

⇒ [コチラから](#)

1. 今さら聞けない、仮想通貨（暗号資産）ビットコインの基礎の基礎

⇒ [コチラから](#)

2. 仮想通貨（暗号資産）ビットコインの超基本を学ぶ

⇒ [コチラから](#)

3. 仮想通貨（暗号資産）ビットコインの全ての基礎がわかる

⇒ [コチラから](#)

4. 草コインからビットコインに次ぐ将来有望な銘柄の探し方

⇒ [コチラから](#)

5. 日本人の99%が全くわかっていない仮想通貨の超ポテンシャル

⇒ [コチラから](#)

6. 仮想通貨投資を元手に資産形成をし老後を自由気ままに過ごす戦略

⇒ [コチラから](#)

7. 失敗しない国内仮想通貨取引所を選ぶために注目すべき4条件

⇒ [コチラから](#)

8. 失敗しない海外仮想通貨取引所を選ぶために注目すべき条件

⇒ [コチラから](#)

9. メタマスク（MetaMask）完全操作マニュアル

⇒ [コチラから](#)

10. NFT(ブロックチェーン)ゲームを無課金で遊べるおすすめ9選
⇒ [コチラから](#)

11. 2024年4月の4度目のビットコイン半減期を大予測
⇒ [コチラから](#)

12. 年利8%以上で運用ができる仮想通貨ステーキング【超入門】
⇒ [コチラから](#)

13. 意外と知られていない超高いコスパの仮想通貨積立とは？
⇒ [コチラから](#)

14. 1億倍を達成した第2のビットコインを探し出すアルトコイン戦略
⇒ [コチラから](#)

15. 草コインを当中させ億り人になるアルトコイン完全攻略マニュアル
⇒ [コチラから](#)

16. 2024年5月からビットコイン仮想通貨のバブル相場が始まる！
⇒ [コチラから](#)

17. 仮想通貨積立 x ステーキングを同時実現させるハイブリッド投資
⇒ [コチラから](#)

18. 通勤時のすき間時間にポイ活して毎月1万円のご小遣いを貯める
⇒ [コチラから](#)

19. リスクゼロで3万円の軍資金を準備する【自己アフィリエイト】
⇒ [コチラから](#)